

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302263		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	郡山ケアハートガーデン グループホーム あさかの郷 1F		
所在地	〒963-0104 福島県郡山市安積町南長久保1-85-2		
自己評価作成日	2023/2/15	評価結果市町村受理日	令和5年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年5月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を大切にし、利用者様の思いを尊重し、その人らしく生活ができるように、ご家族様と連携を大切にしながらケアを行っている。

- ・センター方式のシートを活用し、24時間利用者様の状態を把握しより良いケアができるように職員同士の情報の共有に努めている。
- ・主治医、看護師との医療の連携により、24時間安心して生活できるように支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 年2回職員懇談会を開催し、職員の選挙で選出された職員代表が職員の処遇面や職場環境についての要望を把握し、それを法人と協議している。対応については法人が書面で回答している。
2. 居室には、使い慣れた鏡台や整理ダンス、裁縫セットなど馴染みある私物に加え、仏壇を持参される方もいる。家族の写真なども飾られ、居心地良く過ごせる空間となっている。看取り期には居室内での面会も受け入れ、最期までその人らしく過ごせる支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットに掲示し、朝・夕の申し送りの際意識を高める為、唱和を行うよう努めている。	理念は地域密着や利用者本位を基本とする開所時のものを継続している。朝の申し送り時やケアプラン見直し時に唱和して内容の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶はもちろんの事、町内会に入り、回覧板をまわしたりして地域の中に溶け込むことに努め孤立することなく交流を持っている。以前は地域の方々がボランティア等で交流を持つことが出来ていたが、現在はコロナウィルスの影響もあり交流は、見合わせている。	町内会に加入し、回覧板を職員と利用者が一緒に届けている。以前は近隣の方から庭の草むしりなどのお手伝いをいただいていた。また、幼稚園の訪問もあったがコロナ禍により法人の方針で交流できていない。	コロナの5類移行なども踏まえ、感染予防に努めながら利用者との交流の再開を工夫・検討することが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、エリア会議等に参加し地域の方々との交流に努めていた。又、施設へ来所して頂ける方へは、サービスの説明を行ったり、施設見学をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議のメンバーの方々より、疑問点、介護についての質問等頂き、それぞれ応答を行ったり、メンバーの方々より意見を頂きながら、サービスの向上に努めていたが、現在は感染予防の為、会議を中止し、定期的に事業所の取組内容を書面にて報告している。	運営推進会議の委員には、民生委員や地域代表、地域包括支援センター、家族代表などが入っている。コロナ禍で書面開催となっている。ワンペーパーにまとめられた運営状況報告書と意見用紙を送っており、励ましの言葉をいただいているが意見等は出していない。	双方向の会議となるよう運営状況報告や意見用紙の工夫や電話で聞くなど、意見を出していただけるような工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者に分からない所は質問等をしたり、意見を頂くことにより、質の向上に取り組んでいます。	事業所のコロナ発生時に行政から助言や支援を頂き感染の広がりを最小限に収められた。介護保険関係でも気軽に問い合わせできる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催しそこの話し合いの結果をユニットに落とし込んで、研修やトレーニングシートを使用しケアの向上に努めている。	管理者・計画担当者・介護課長・法人本部職員による身体拘束委員会を2か月に1回開催している。年1回職員アンケートを行い身体拘束委員会で集計分析し、課題を把握し話し合っている。また、具体的な事例を基に職員研修を行う他、職員のストレス対策も行き、拘束のないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてはケアプラン会議等で内部研修を行い理解に努めている。職員同士が自覚を持ち、定期的なアンケート等を行い常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しては、全職員が学ぶ機会が少ないが該当する入居者がいる為、その担当者と連携を取り合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、十分に時間をかけながら説明をし、納得して頂けるようにしている。又、サービス開始後も不明な点があれば、納得して頂けるまで対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を入れる袋を設置しているが周知が不十分な為活用も不十分である。ただ、入居者様からは、普段の会話の中で意見、要望を聞いている。ご家族様には面会時、電話での連絡の際意見、要望等聞いて対応している。	本人に暮らし方を聞いて希望を把握しており、例えば歩行継続の希望にはケアプランに歩行訓練を入れるなど反映している。家族からは面会時やケアプラン更新時に本人の状況を伝え要望を聞いて対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、前期・後期に分けて代表者による懇談会を開催して職員からの意見・提案を聞く機会を設けているが、現在は、意見を出してもらい、それに対して書面にて回答をしている。	年2回職員懇談会を開催し、職員の選挙で選出された職員代表が職員の処遇面や職場環境についての要望を把握し、それを法人と協議している。対応については法人が書面で回答している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価基準を設け、職員と面談を行いながら、個々の向上心につながるようにしている。又、シフトの調整を行いながら、有休休暇を取りやすいようにしている。(促している。)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在外部への研修へ行く機会が減っているが、内部研修やリーダー研修の内容をリーダーを中心に施設内の職員それぞれに個別で行っている。今後は、できる限り、外部研修等へ参加できるように体制を構築していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナの影響で他施設との交流は行っていない。県、市、協議会主催の研修や社内グループ系列の他施設との(他県の)チャットを使用した内部研修や交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始がスムーズにいくように、家族や担当のケアマネから事前の情報を収集し職員への情報の共有を行い、ご本人が安心して施設での生活がスタートできるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と信頼関係が構築できるまで、ゆっくりとご家族の悩みや心配ごと、不安に思っていることなどの話に耳を傾け話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の様子はこまめにご家族に伝え、必要な支援は何かをその都度考え、提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員からの一方的な介護にならないように、又、職員の方から、指示・命令口調にならず、共に暮らしている関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族との関係性が断ち切らないように家族と入居者様をつなぐ役割を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、面会を制限しているが、ご家族や友人関係が引き続き断ち切れることがないように、人数や時間の制限を行いながら、面会をして頂き関係性継続の支援に努めている。	面会制限をしており、電話や手紙で家族と交流している。面会は現在法人本部で方法や条件を検討中である。看取りの場合は部屋での面会が可能になっている	窓越や庭など面会場所や面会方法などを工夫して、馴染みの関係の継続を図る支援が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや行事、生活の場等で、それぞれが孤立することのないように職員が橋渡しを行っている。また、利用者同士の関係性を考慮し、楽しく会話したり、過ごしやすい環境等に工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了し、契約が終了した後も、関係性を大切に、必要時には相談に応じることは、伝えてある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、入居後も常にご本人の意向の確認に努めている。意向確認が難しい場合は、24時間シートを活用し、記録を取りながら会議等にて職員話し合いをし、検討している。	生活状況を記録する24時間シートを使い利用者の気持ちや様子を記録しており、それを基にアセスメントとしてまとめカンファレンスで話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時もセンター方式の用紙を活用し、出来る範囲でご家族様より記入してもらい、今後のケアに活用している。また、関係者から情報を頂き、以前の暮らしが継続して出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用し、本人の行動・気分・言葉などを記入しそれを会議にて本人の状況の把握等に使用しケアに活用している。又、日々の過ごし方を24時間シートに記入し、残存機能を活かしたケアができるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング(ケア会議)や日々のケアの中で意見を出し合い、流動的な課題の変化に即した介護計画を作成し、それに沿ったケアを実践している。	開所当初からセンター方式の「24時間シート」を使い、アセスメント・モニタリング・支援内容をワンペーパーにまとめ介護計画に代えている。入居時のみケアプラン(居家用)を作成しているが、それ以後は24時間シートで介護計画としている。	利用者・家族・職員にとって分かりやすい介護計画を提示することは、適切なケアマネジメント実践につながるため、より質の高いケアサービスを提供するためにも介護計画策定の一連の様式・項目の見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを用いて、気づきや工夫を記入し職員間での情報の共有に努めている。実践内容については、毎月のミーティングにて職員から意見を出し合い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の意向等を本人やご家族と話し合いをしながら柔軟に対応している。又、外出希望時等でご家族が対応困難な場合は、相談をしながら、できる限り本人の意向に沿えるように工夫して対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できる限り、地域で行われる祭りや行事等に参加し、地域交流を図っていますが、現在は、コロナの関係もあり、中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、受診の意向の確認を行っている。ご本人やご家族の希望を大切に、家族様の対応にて受診に行ったり、往診の先生に来て頂いたり柔軟に対応している。また、医療頻度が高い場合は主治医との連携にて入院等の支援も行っている。	入居前のかかりつけ医を継続する場合は、家族同行のもと事業所から生活状況報告を書面で受け取り、受診している。協力医による訪問診療は月2回、他に訪問看護師が月2回、訪問歯科診療は必要の都度来訪し、健康管理にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来所し、職員からの情報や気づきを基に相談をして、適切な受診等ができるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、ご家族様の意向を確認しながら適切な治療を、どの程度受けれるかを家族と相談し、主治医や病院関係者等と連携を図っている。また、本人にとっても馴染みの関係を継続できるように入院時には面会なども行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族とは早い段階で施設の中で、できる支援についての説明をし、納得して頂きながら主治医と共に方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係わる指針」を入居時及び状態変化時に説明し、同意を得ている。加えて毎年家族から看取りケアの意思確認書による同意を得ている。逝去後、ケア内容の振り返りを行うと共に定期的に看取りケアの研修会を開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時の対応はマニュアルに沿って手当をしたり、主治医と連携を図りながら実践を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	火災・地震・水害等の災害時の対応を訓練マニュアルに沿って、定期的に方法の確認を行い全職員が身につけるようにしている。	消防計画に基づき、夜間想定を含む総合訓練を年2回(消防署届出済み)と消火訓練・地震想定訓練などを実施している。缶詰・レトルト食品・飲料水など概ね3日間の非常食を備蓄しており、リビング及び玄関には防災用ヘルメットを常備している。BCPは本部と協働で作成中である。	年間の消防計画では、訓練の内容が分かるように作成するとともに夜間想定訓練の回数増や風水害訓練を加えることが望ましい。また地域との協体制の構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに配慮しながら、お互いに注意しあって対応している。又、利用者様の誇りやプライバシーを害する行為や言動がないようにお互い注意しあっている。	人格を尊重した丁寧な声かけを心がけ、実践している。排泄ケアや入浴ケアでは、羞恥心にも配慮したうえで細やかな支援にあたっている。介護記録や介護保険証などは事務所内の施錠できる場所に保管し、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に問いかけの言葉かけでなく、選択肢を提案するなどして、本人の意思表示、決定する場面を作り支援している。又、表情や態度から意味を察したり、読み取る等の職員の意識向上にも努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人ひとり、その時々体調や気分、思い等があるので、配慮をして柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着て頂いている。又、選びやすいように提案し選択して頂いている。理容・美容も本人の希望で美容室に行かれるかたもいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の皮むき、お膳ふき、テーブル拭き、皿・コップ洗い等を、入居者に合わせて声をかけを一緒に行っている。職員も同じテーブルで同じ物を召し上がり食事を楽しんでいる。	副食はチルド食、ご飯と味噌汁は手作りで提供し、職員も一緒にテーブルで食べている。盛りつけや食器の後片付けなど利用者の手伝いを頂いている。誕生会などの行事食やホットプレートを用いてお好み焼きやホットケーキ作りも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、食材業者の管理栄養士がカロリー・塩分等に気をつけたメニューを作成したものを確認しながら、調理等を行っている。又、毎食の食事量や水分量のチェックを行っている。医師からの制限や注意すべき食べ物がある場合は代替や調理方法を工夫して提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声がけを行い、それぞれ必要に応じて介助を実施している。夜間は、義歯を消毒している。口腔内に異常があった場合には、訪問歯科の先生に相談し、往診に来てもらっている。定期的に口腔ケア用品の交換を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェックで排泄状況を把握し、一人ひとりにあった、パッドやオムツを使用を工夫している。重度の方でも、工夫してトイレの誘導を行い、排泄の支援を行っている。	排泄パターンを介護記録や利用者の表情・仕草などから把握し、羞恥心に配慮しながらトイレで排泄できるよう支援している。乳製品やオリゴ糖の摂取、運動を取り入れ、自然排便を促している。パッド類の使用方法も快適性と経済性(費用負担軽減)の両面から検討を深めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの方にあつた排便コントロールの仕方を考え対応し、乳製品の摂取や日々の体操等を行って頂きながら、予防に努め、主治医と連携し、下剤の調整等もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	勤務スタッフの減少による入浴回数の減少がみられるが、残業等で回数を増やす工夫はしている。また、体調や重度化に合わせて、入浴・シャワー浴・清拭等の工夫や、本人の希望時に、できるだけ入浴して頂く対応をしている。	週2回を基本として同性介助や浴室外(ドア越し)での見守りなど、羞恥心や尊厳に配慮したケアに努めている。お湯はひとりごとに張り替えている。拒否のある場合は、曜日や職員を代えるなどの支援をしている。介護度が高く浴槽に入れない方はシャワー浴を行っている。スタッフ不足で週1回の時も見られる。	入浴回数は基準の週2回を下回ることはないよう支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	訪問マッサージや日中の体操の時間を設け、又レクリエーション等を行い、日中帯の活動量を増やせるように工夫している。夜間は、一人ひとりに合わせて入床の声がけや介助を行い、寝具をこまめに洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は内服薬の情報を周知し、毎日次の日の薬のセットを行っている。セットした薬はセットミスが無いように2重チェックを行っている。職員は服薬の確認を行い身体状態の変化等により、主治医に報告、相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、食器洗いや洗濯たみなど入居者様同士や職員とのコミュニケーション、会話を通して役割や生活に張りをもって過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、ご本人の希望・意向に沿えるようにご家族と相談、連携を図りながら、コロナ感染症に注意しながら、買い物や自宅を確認しに行ったり等の支援を行っている。又は、ご家族へ依頼している。	職員とともに敷地内の集積所へのゴミ捨てや事業所近隣の散策、近所の方と挨拶を交わすなど、コロナ禍にあっても日常的に外へ出る機会をつくっている。今後本部とも検討しながら、家族の協力も得て外出の機会を増やしていく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をする楽しみなどを伝え、希望に沿えるように対応できるように一緒に買い物をしたりしている。又、外出が困難な場合は、嗜好等など具体的に聞き取り、「ご家族へ買い物の依頼」を行ったり、職員が本人に代わって買い物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が家族と連絡を希望された際は、電話等で直接会話をさせて頂いたりしている。手紙のやり取りも本人に文面を書いて頂き、投函等は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは室温や湿度を1日2回確認し、居心地よく過ごせるよう配慮している。又、四季折々の飾りつけを行い、季節感を味わってもらえるように工夫している。	木の暖かみある共用空間は、1日3回の清掃と換気・温度・湿度の管理が徹底され、衛生的で快適な場となっている。壁面には季節の飾り付けが施されている。リビングには畳の小上がリスペースがあり、ウッドデッキ越しに広い庭の風景を楽しむこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ケアプラン会議において入居者様それぞれの状況を確認し、居室担当者を中心に話し合いをして安心して過ごせるように工夫をしている。利用者同士が楽しく過ごせるように支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの物を持参し安心して生活ができるようにご家族と相談しながら環境整備に努めている。家族の写真を置いたり、昔使用していたたんすを置きその人らしく暮らせるように工夫している。	居室には、使い慣れた鏡台や整理ダンス、裁縫セットなど馴染みある私物に加え、仏壇を持参される方もいる。家族の写真なども飾られ、居心地良く過ごせる空間となっている。看取り期には居室内での面会も受け入れ、最期までその人らしく過ごせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングには随所に手すりを配置し、室内では本人が安心して、安全に暮らせるように状況に合わせて目印や案内を標記したりして工夫を行っている。		